

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	メッチャハッピーちかた		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 3日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校法人としての特性を生かし、園との連携が密であることから、子どもを真ん中に据えた一体的な支援が実現している。園での生活と事業所での支援がつながることで、子どもが安心して過ごし、のびのびと成長できる環境が整っている。	園での様子と事業所での支援が途切れないよう、日々の情報共有や活動内容の調整を丁寧に行うことを大切にしている。職員同士が子どもの姿を共有しながら、園と事業所が同じ方向を向いて支援できるよう、自然な連携を心がけている。	今後は、園とのつながりをさらに深めるために、連携の内容を分かりやすく整理し、保護者にも伝わりやすい形にしていきたい。保護者が安心して支援に関わりやすくなるよう、情報の届け方を工夫していく。
2	感覚運動遊びを取り入れた活動を継続的にを行い、子どもの「できた」を積み重ねる環境が整っている。	感覚運動遊びについては、子どもの状態を観察しながら内容を調整し、楽しさと成長が両立するよう工夫している。	活動のねらいや効果を整理し、保護者にも伝わりやすい形で発信することで、より深い理解と協力につなげていく。
3	幼児教育や特別支援教育の専門性を備えた職員を配置し、子どもの発達段階に応じた質の高い支援を行っている。	職員間では子どもの姿を丁寧に共有しながら活動を計画し、個別と集団のバランスを大切に支援を心がけている。	職員の専門性をより広く共有できるよう、職員研修を充実させ、支援の質をさらに高めていきたい。また、日々の学びや気づきを職員間で共有し合うことで、より強いチーム力を育み、子どもにとって最適な支援につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングなどの家族支援がまだ十分に実施できておらず、保護者が学び合える場や交流の機会が限られている。	すでに園を通じて保護者同士の交流はあるものの、事業所として体系的に家族支援の場を設ける体制が整っていないことが背景にある。	保護者のニーズを踏まえ、無理なく実施できる方法を検討しながら、継続的に取り組める家族支援の体制を整える。保護者が安心して参加できる場づくりを進め、家庭と事業所が一緒に子どもの育ちを支えられる関係を育てていく。
2	ホームページなどによる情報発信がまだ十分に整っておらず、事業所の取り組みや支援の様子を保護者や地域の方々に分かりやすく伝えられていない。	日々の支援業務を優先してきたため、情報発信の体制づくりが後回しになり、発信内容や更新方法が十分に整備されていないことが要因となっている。	現在ホームページを準備しており、整い次第、情報発信を進めていく予定である。更新体制や掲載内容を整理し、事業所の取り組みが保護者や地域に分かりやすく伝わる仕組みを整えていく。
3	地域との交流や、行事への招待といったつながりがまだ十分に広がっておらず、地域との関わりが限定的になっている。	地域連携を計画的に進めるための体制がまだ整いきておらず、交流の機会をつくるのが難しい状況が背景にある。	まずは無理のない範囲から交流の機会を少しずつ増やし、地域に開かれた事業所としての役割を育てていきたい。その一つとして、子どもがいない時間帯に見学会を設けるなど、地域の方々が気軽に事業所を知る機会をつくり、子どもたちの育ちを地域とともに支えていける関係づくりを進めていく。